

10月26日（土）に鳥取大学附属小学校において、研究発表大会を開催しました。県内外からたくさんの方々にご参加いただきました。授業を公開した後は、参加された先生方と提案した授業づくりについて協議しました。今後も広く、教育研究の成果や附属学校部の取組について情報発信をしていきます。

大会の運営に当たっては、共同研究者の皆様、懇話会の皆様、鳥取大学の学生のみなさんいろいろな場面で支えていただきました。厚くお礼申し上げます。



全体会の様子

鳥取大学の矢部敏昭先生をお迎えして「学びのプロセスと授業評価」についてご講演いただきました。教科の学びは人間の営みそのものであり、教科の学習を通して、どう生きるのかを子供自身が主体的に創造していく力をつけていく必要があることなど、教師の身構えや教科の本質を踏まえた授業づくりについて具体的に話していただきました。子供の評価や授業の評価を通して、研究の柱である「学びのプロセス」の質を、今後さらに高めていきたいと思います。



矢部敏昭 先生のご講演の様子

【道徳科 4年生】

杉谷義和教諭による道徳科「人に親切にするとはどういうことなのか」の提案授業が4年生で行われました。子供たちは、道徳教材のお話と自分の経験を重ねながら本当の親切について友達と話し合いを重ねました。「自分のことだけでなく、相手がどうしてほしいのか想像することが大切」「大丈夫ですか？〇〇しましょうか？と相手に最終的な判断を委ねる姿勢が大切」「電車の中という状況なら、周りで寝ている人や休んでいる人にも配慮しながら相手への親切を考えるべき」など、一人一人が自分なりの親切を考える姿が見られました。



道徳科の授業の様子

分科会では、道徳の授業で活用された「名前カード」と「心のものさし」が一人一人の思いや考えを可視化させ、多様な考えを生み出すきっかけになっていることや、一人一人の学びの様子や変化を捉えやすくさせるものになっていて、明日からの授業に生かせる工夫があったと、参加された先生から感想をいただきました。今後は、「気づいてはいるけれど、やってみることはなかなか難しいこと」についても共感できるような、人間の弱さへの理解（人間理解）にも着目した授業づくりと指導を考えていきます。



分科会（道徳科）の様子

【算数科 6年生】

村上弘樹教諭による算数科の提案授業「問題解決における図を利用した授業（比例と反比例）」が行われました。比例関係にある2つの現象がかかれたグラフを根拠にして、x軸やy軸それぞれの数値に着目したり、2つの事象の変化の関係をグラフからよみ取ったりしながら考察を深めていく子供の姿を期待した授業でした。

授業では、2本のローソクが燃えていく様子を表したグラフを提示し、まずはグラフから分かることを自由に話し合いました。そして、「(問題) Aのローソクの残りの長さがBのローソクの残りの長さの2倍になるのは何時間何分後でしょう。」について考えました。



算数科の授業の様子①

授業後半には、グラフの数値を変えて子供自身が練習問題を考え、本時で学んだグラフの見方・考え方を使って問題を解くことができました。授業後には、「式を使わなくても、グラフからよみ取るだけで問題を解くことができた。」「グラフには、いろいろな情報が表されていることがわかった。」など、グラフのよさを実感する子供たちの反応が見られました。

今後も、授業の中で図を積極的に利用していくことで、子供たちが図のよさを実感できる授業づくりを進めていきます。



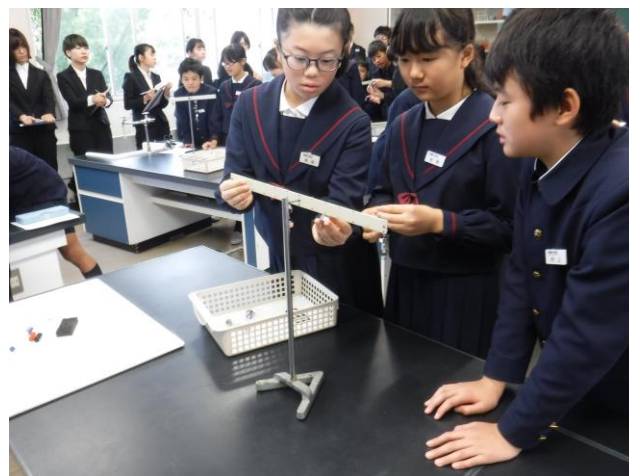
算数科の授業の様子②

【理科 6年生】

磯江孝教諭による理科の提案授業「てこのはたらき」が行われました。自然現象を解明するにあたり、科学的に実験をする力を高めることをねらいとした授業です。科学的とは、「実験や観察で確かめられる(実証)」こと、「その実験や観察が同じ条件の下では、何度やっても同じ結果が得られる(再現)」こと、そしてこれらの条件を満たした結果を示すことで、「周りの人に納得してもらう(客観)」ことをふまえることができることとすることができます。

今回の授業では、てこがつり合うときのきまりである『おもりの重さ×支点からの距離』が左右のうでで等しいときにつり合うことを、実験で証明する活動をしました。自分が納得するだけでなく、結果を客観的事実として提示し、それを根拠にして結論を示す必要があります。そのためには、実験結果が前述した条件を満たさなければなりません。授業では、自分なりに考えた科学的な方法で実験をした後、その方法が科学的であったかを教科書に挙げられている実験と比較しながら考え、話し合いました。自分では科学的に行ったと思っていても、実はもっと条件をそろえて実験をしたり、つり合う結果とつり合わない結果の両方が必要だったり、得られるデータの種類を多くしたりしなければならぬことが見えてきました。この話し合いを通して、科学的に実験をする方法について考えを深めることができたのではないかと思います。

理科の学習では、このように、「科学的」に問題を解決する過程を通して、自分でしっかり考え、判断していく力を身に付けていきます。



理科の授業の様子